

事務事業計画書兼評価表(A表)

1 事務事業に関する基本情報

1 事務事業に関する基本情報					令和	6	年度
事業番号	837		事業名	若桜鉄道対策費			
担当課	企画課		担当係	若桜鉄道運行対策室	担当者	保木本 幸雄	
総合計画に最も 関連ある施策	施策	3	安心安全な暮らしづくり		連絡先	0858-76-0212	
	施策体系	2	道路・交通環境の充実		事業区分	■新規	
	主な事業	若桜鉄道対策事業				□継続	
予算区分	款	2	総務費		事業実施 主体	■八頭町	
	項	1	総務管理費			□その他	
	目	21	若桜鉄道対策費		計画期間	開始	平成21年度
	事業	837	若桜鉄道対策費			終了	

2 事務事業の概要

事業の対象	誰(何)に対してこの事業を行うのか記載。 ・町民、観光客等		
事業の目的	誰(何)をどうするためにこの事業を行うのか記載。 ・安全で安定した若桜鉄道の運行を維持するとともに、鉄道利用客の利便性の向上を図る。また、若桜鉄道を活用した観光振興を図る。		
事業の内容・手段	事業の規模や業務量など、また、どういう方法、手順で事業を進めるのか、具体的に記載。 ・地域公共交通確保維持改善事業(国庫補助事業)による軌道設備の更新、鉄道施設保守管理業務等による軌道設備の維持管理や駅舎等管理、車両の改修を行う。なお、軌道設備の更新や軌道設備の維持管理、車両の改修に関しては、若桜鉄道(株)に業務委託を行い実施し、駅舎等については、町で直接管理する。また、国からの地方創生推進交付金や、沿線市町で構成する利用促進実行委員会で展開する利用促進策により、観光素材の磨き上げ、観光客のさらなる誘客を行うほか、全国のローカル線の成功事例などを参考に、情報発信の強化や輸送人員の拡大を推進する。		
事業の成果到達点	どんな成果を得たいのか、または、何がどうなれば達成か、具体的に記載。 ・安全で安定した鉄道輸送の確保と公共交通網の整備を行うことにより、町民の利便性の向上が図られる。若桜鉄道(株)の輸送人員の増加と黒字化を目指す。		
根拠法令等	1	1. 法令(義務) 2. 法令(任意) 3. 条例 4. 規則・要綱等 5. なし	法令等名→ 鉄道事業法

3 活動指標、成果指標

活動指標		単位	事業の手段を図るものさし
	A	人	輸送人員
	B		
	C		
	D		
成果指標		単位	事業の成果、到達点を図るものさし
	A	千円	若桜鉄道(株)経営収支
	B		
	C		
	D		

4 コスト

区分			R3年度	R4年度	R5年度		R6年度		R7年度
		単位	実績	実績	目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	A	人	377,972	475,170	390,000	424,608	490,000	422,099	490,500
	B								
	C								
	D								
成果指標	A	千円	△ 3,470	743	100	812	841	656	1,570
	B								
	C								
	D								
トータルコスト		千円	187,696	206,572	222,103	242,086	170,719	185,432	224,017
担当職員数		人	1.0	1.0	1.0	1	1.0	1	1.0
職員人件費		千円	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000
事業費		千円	179,696	198,572	214,103	234,086	162,719	177,432	216,017
事業費財源内訳	国庫支出金(交付金・補助金)	千円	27,139	27,467	23,467	35,736	8,098	11,818	19,884
	県支出金(交付金・補助金)	千円	21,159	23,253	25,319	26,243	27,007	27,631	29,032
	地方債(借入金)	千円	84,000	93,800	100,600	105,600	83,400	94,700	110,200
	事業収入(使用料・参加費等)	千円	46,246	52,959	63,203	58,828	39,356	38,563	46,533
一般財源(単町費)		千円	1,152	1,093	1,514	7,679	4,858	4,720	10,368

事務事業計画書兼評価表(B表)

5 実施活動内容・成果(到達点)

令和 6 年度

実施活動内容・成果(到達点)	実施活動内容(具体的に)
	・公有民営化方式により八頭町・若桜町が軌道や車両の保守・維持管理及び設備改良等を実施し、年間を通して安全な旅客輸送を確保した。 ・高校生通学費助成制度の拡充(上限7,000円/月→上限5,000円/月)を継続し、子育て環境の改善をはかり、公共交通利用の転換をすすめ、輸送旅客の確保を行った。 ・若桜鉄道企画乗車券(1日フリー切符)のキャンペーンを2回(夏、冬)実施し、観光客やスキー客の利用を促進した。 ・国の交付金を活用してデジタルスタンプラリーを実施し、各駅並びに列車乗車のきっかけを造り、周遊と消費行動の促進を図った。 ・JR西日本と連携し、鉄道の魅力発信と新たな鉄道ファン獲得に向けた企画(あめつち因美線乗り入れ事業)を実施した。
	成果(具体的に) ・国へ設備更新や検査費用の補助金の確保を要望し、安全輸送にかかる工事、修繕(木柱のPC化、踏切無遮断防止対策等)を計画どおり実施できた。また、乗客の利便性や現行のダイヤを維持するために新たな運転士等の採用を継続して行い、JR西日本との連携をはかり合同訓練を定期的に実施している。 ・「1日駅長体験」や「SL/DL体験運転」などの体験型商品の販売に加え、他事業者の修繕業務の受注も積極的に行うことで、営業外収益の安定した収入の確保につながった。 ・物価、燃料の高騰等による経費が上昇する中、在庫管理、業務改善を徹底し約1,300万円の経費を圧縮し、最終的な決算では65万円余りの黒字となった。

6 事務事業の評価

評価項目	評価点	チェックポイント	判断理由・評価コメント(具体的に記入のこと)
必要性 (町民ニーズ)	①	①必要性が高い ②どちらかと言えば必要性がある ③必要性が低い ④必要性がない	・通勤、通学また高齢者や免許を所有しない者にとって、生活における移動手段の確保を図るため、鉄道の維持・確保は必要である。
妥当性 (町が行わなければならないか)	①	①町が行わないといけない ②どちらかと言えば町が実施 ③妥当性が低い ④妥当性がない	・八頭町は第三種鉄道事業者として安全輸送を確保する義務がある。
効率性 (コスト削減の余地は無い)	②	①効率的である ②どちらかと言えば効率的である ③どちらかと言えば非効率的である ④非効率的である	・鉄道設備の修繕等を行う施工業者は、他の公共工事に比べ限定されるためコストは割高となる傾向にあるが、若桜鉄道においては可能な限り直轄工事を行い、経費圧縮、また修繕・工事施工事業者の拡大を図っており価格の公平性を維持している。
緊急性 (他事業に優先し実施する必要があるか)	①	①緊急性が高い ②比較的緊急性がある ③緊急性が低い ④緊急性がない	・現在保有している車両は運行開始から35年以上経過しており、故障が増えていること、修理部品の枯渇や代替用品の確保が難しくなっていることから、今後地域住民の生活交通を確保するためにも、車両更新に対して方針を決定する必要がある。
成果 (目的の達成状況)	②	①成果が上がっている ②どちらかと言えば上がっている ③どちらかと言えば上がっていない ④成果が上がっていない	・若桜鉄道の乗車人員や旅客収入を確保していくため、効率の良いダイヤ編成や運用、技術力を活かした修繕業務の受注などの営業活動が必要である。

7 町の方向性・方針

事業の方向性	問題点及び今後の課題・方向性
1 拡充する	(事業活動に当たり、一番の問題点として捉えていること。重点的に手当てする事柄、改善点、工夫したい箇所) ・車両の老朽化により故障が多発しており、定時安定輸送を維持することが難しくなることが懸念される。また指令や保線業務にあたる職員の高齢化が進んでおり、積極的に職員を採用し世代交代を図る必要がある。 ・旅客収入を飛躍的に伸ばすことは困難であると予想されるが、沿線住民の乗車意識の高揚、公共交通利用への意識転換を図り、鉄道関連イベントへの参加や修繕業務の受注などを積極的に行い営業外収益を確保する必要がある。 (上記問題点を解決していくため、次年度どんな活動を展開していくのか) ・車両の更新計画をすすめ、予算の確保と沿線住民のコンセンサスを作り上げる。 ・計画的な職員採用を継続して実施し、経費削減と外部委託業務の精査を図る。 ・都市圏で実施するイベント等に積極的に参加し、若桜鉄道のPRやグッズ販売を行い、営業外収益の確保を図る。 ・インバウンド向けの体験事業の営業拡充を行い、近畿中国圏で行われる商談会等で旅行会社との提携を図る。
2 改善・効率化し継続	
3 現状維持	
4 見直しの上縮小する	
5 終期設定し終了	
6 廃止	